



長澤 茂さん(大倉)

仮設住宅には、我々夫婦と96歳になる母と3人
いるんだ。今は、避難指示解除に備えて、村の家
の畳やふすま、風呂などを直しているところだよ。

長い間、仮設住宅での生活が続き、ご高齢のお母さんにとっても、ご家族
にとっても、大変なご苦労があったことと思います。その中で、自治会の行
事などに協力したり、愛好者で週に2回のグラウンド・ゴルフを続けていた
りなど、住民の皆さんの支え合う暮らしぶりには、本当に頭が下がります。

村は、避難指示解除時期を平成29年3月とするよう、また、それに向けて
長期宿泊を実施するよう国に要望しています。長澤さんは、ご自宅のリフォ
ームも進めているとのこと。生活が再び大きく変化することは大変なことだ
ですが、体調に気をつけながら、ご家族がそろってお元気で乗り切っていだ
ければと思います。



鈴木 利子さん(小宮)

5年を過ごしてきた仮設住宅。村の人同士が関係
を築いて仲良くうまくやっています。この先また
新しい環境でこうした関係が築けるのか不安です。
高齢者はなおさらです。

災害救助法に基づく応急仮設住宅の供与期間は、本来、建築工事完了から
最長2年3か月以内とされています。しかし、東日本大震災と原子力発電所
事故による今回の避難においては、現状をふまえて期間の延長が繰り返され
ており、現在のところ平成29年3月31日までの延長が決まっています。

村は、村民が徐々に新しい暮らしで自立していけるよう、応急仮設住宅・
借り上げ住宅の供与期間について、避難指示解除後も柔軟に制度を運用する
よう国や県に要望しています。

現在は、避難先自治会の支援はもとより、方部別コミュニティへの協力
(しあわせカフェ)、趣味の活動を行うグループへの支援などを行っています。
また避難指示解除後も、避難先自治会等の再会の機会を補助したり、集会や
イベントを開催したりしながら、新たなコミュニティづくりも支援できるよ
う具体的な検討を進めているところです。



いいたて 歳時記

その13

鳥捕りのスゴ技

少しづつくりのお話かもし
れません。昔は、ホオジロやカ
ケス、スズメなどの野鳥を、食
べるために捕っていました。捕
る人は、一日になんと50から60
羽も捕まえていたそうです。

桑の木に餅をつけて擬木(自
然の木を真似た枝や幹)を作り
くつついた鳥を捕る「とりもち」、木をまげて罫を
かける「ごんぶち」、木の上に仕掛けを作る「かさわ
んな」カゴを使う「おつかぶせ」など、さまざまな
方法がありました。他にも、曲げて固定した竹が、
鳥が来ると勢いよく外れて、当たった鳥が気絶し
たところを捕まえる「ひっぱちくり」というワイル
ドな方法もあったそうです。

食料となるのですから、大人も子どもも一生懸
命「鳥捕り」をしました。魚釣りのような感覚だっ
たのでしょうか。現在、野生の鳥たち
は、鳥獣保護法という法律で守られて
います。ルールに則り狩猟できる種類
もわずかにありますが、原則的には捕
まえることも飼育することも禁止され
ています。「鳥捕り」は、今は幻のスゴ
技という訳です。



参考:「おばあちゃん、おじいちゃんの知恵袋」
村教育委員会発行



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
村山 心 絃 ちゃん	翔太・美咲	深谷
渡邊 凛 心 ちゃん	健児・美沙紀	比曽

すくすくと元気に育ってね



結婚おめでとう

氏名	出身地
草野 学 路	伊達市
佐藤 夢 路	上飯樋
田島 涼 平	福島市
高橋 瑞 穂	白石

いつまでもお幸せに



おくやみ

氏名	年齢	行政区
林 利 雄	87	白石
鈴木 信 七	94	佐須
大谷 秀 子	90	小宮
大千 葉 節 子	66	前田
北里 テル子	88	草野
大村 カツ子	85	関沢
武田 一 子	84	草野

ご冥福をお祈り申し上げます

(3月21日から4月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成28年3月31日現在)

人口	今月(前月比)
男	3066人(-17)
女	3138人(-10)
計	6204人(-27)
世帯数	1846戸(-5)

3月1日~31日までの

◆人口動態◆

転入	1人
転出	28人
出生	7人
死亡	8人
(住民基本台帳人口)	

編集後記

4月14日に発生した
熊本県熊本地方を震源
とする最大震度7の地
震により、熊本県益城
町を中心に大きな被害
が発生しました。連日の
報道を見ていて、震災
直後の記憶を思い出し
た方もいたのではないで
しょうか▼村では、この
地震により被災された
方を救援するため、19
日から義援金募金箱を
設置しました。村民の方
の中には、村が義援金
を集めるより早く、「義
援金を村から送付して
欲しい」と募金に来る方
がいらつしゃいました▼
震災という辛い経験を
し、これまで数えきれな
いほどの多くの温かな
ご支援を受けてきた「飯
館村民」だからこそでき
ることがあるはずだす。
あたたかな手を差し伸
べるのは、今度は私たち
の役割なのかもしれま
せん。
(木幡)